

2012年9月4日

須崎ぶどうの房（クラスター）防護計画

目的

超巨大津波から小さな津波まで避難だけを検討するのでは、須崎のマチは廃墟とがれきの山になり、火災の発生を止めることはできません。円滑な避難を助けるとともに、がれきの発生と火災防止を考えた新しい対策について須崎市から情報発信をします。

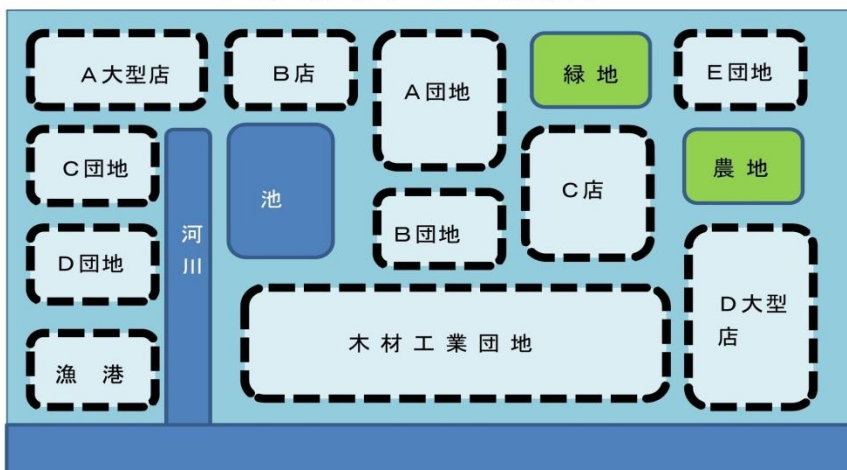
須崎は今まで津波を「線」や「高さ」として考えるのではなく、「面」と「流れ」を抑制することを考え、簡単な既存の技術を組み合わせで津波減災対策に取り組んできました。

計画の概要

クラスターとはぶどうの房を意味する言葉です。クラスター防護計画とは街区（実）と全体（房）を科学的に調和させる新しい防護計画です。3. 11津波や最近の都市河川洪水を分析した結果、生まれた新しい計画概念です。

- 水の流れをやさしく受け止める術（すべ）として屋敷林を大きくしたような津波防護林（透過式防護壁）に囲まれた街区（ぶどうの実）を考え、クラスター（ぶどうの房）として全体の安定を考えます。街区の周りに津波防護林を配置し守ります。

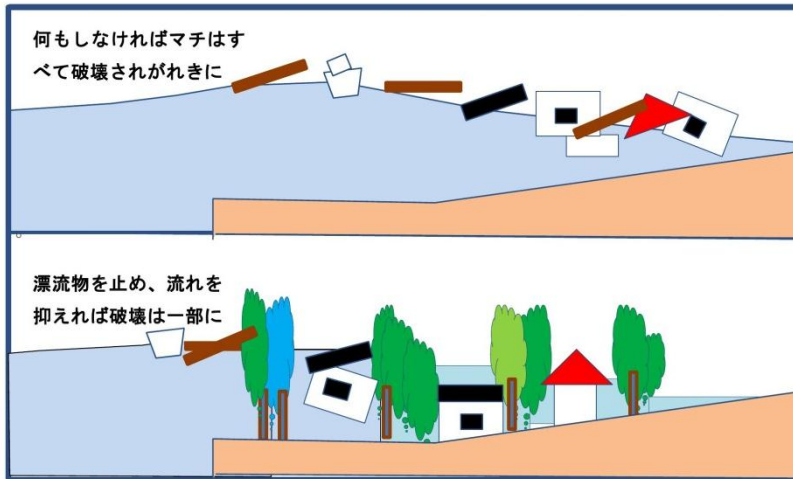
ぶどうの房（クラスター）防護計画



- 街区の意思、要望を反映させつつ全体の防護の調和を図ることを目的とします。

- 個々の「透過式防護壁」としての津波防護林の粗密を意図的にコントロールすることで、クラスター全体の水の流れをコントロールして被害を抑えます。具体的には、住宅地には負荷を掛けないよう道路、池、河川、緑地や耕地に水が流せるように津波防護林を設計します。

多ノ郷、桐間の津波防護林の役割



- 従来のマニングの式と地形の粗度を与えた従来の方法とは違う「政策型津波シミュレーション手法」を「須崎方式」として開発させてゆきたい。

その効果

- 自治体自ら津波総合診断をし、市民の協力が得られれば、低廉な手段で巨大津波の被害を抑えることができます。
- 危険ながれき火災の発生も抑えることができます。
- 逃げ遅れ、流された場合も樹木で助かる確率が増えます。